

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	このえ武蔵境保育園
施設所在地	武蔵野市境1-16-26
法人名	株式会社なないろ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

防犯について(自分を守る、命を守る)

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

日々の避難訓練や防犯訓練を通して、子どもたちが「防犯」や「命を守ること」に強い興味・関心を持つ姿が見られた。そこで、就学に向けて「自分の命を自分で守る方法」を身に付けることを目指し、本テーマを設定した。

また、都市型保育園の課題として、施設構造の制約や異常気象による活動制限などがある実態を踏まえ、天候に左右されずに発達過程に沿った身体づくりができるよう、専門講師を招いたプログラムも取り入れた。さらに園内にとどまらず、社会見学(園外保育)などの探究活動を通じて、子どもが自ら調べ、体験し、深い理解を得られる環境をデザインした。

2. 活動スケジュール

- ① 10月22日～31日：賞味期限と消費期限について給食職員から学び、生食用肉の観察を行う。
- ② 10月27日～11月28日：防犯ブザーについて知り、使用方法を学ぶ。また、園内の危険箇所実際に設置して使用体験を行う。
- ③ 11月17日～21日：非常口の必要性について知り、園内や近隣の非常口を探し、防犯・防災の意識を高める。
- ④ 12月1日～5日：子ども用アクションカードを作成し、他クラスへ共有する。また防犯標語「いかのおすし」について共有し、防犯への意識付けを行う。
- ⑤ 通年(4月～3月)：身を守るために必要な身体の動きや、合言葉(自分を守る、命を守る、いかのおすし)をもとに、動画を制作する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

《園内活動》

- ・アクションカード作成用具(画用紙、マジック、テープなど)、車いす
- ・防犯ブザー(各種)

《災害動画》

- ・動画制作機材、外部体操専門講師

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ① 給食職員から賞味期限と消費期限について学び、生肉の色の変化や匂いを観察することで、食中毒への意識を高め、自ら安全を判断する力を養った。
- ② 防犯ブザーの役割や使用方法を学び、園内での有効な活用方法を話し合った。子ども用トイレ、大人用トイレ、相談室など「一人になる場所」を中心に設置し、全クラスへ使用方法を共有した。
- ③ 非常口の必要性を知り、園内や近隣施設の非常口マークを実際に見学することで、いざという時の身の守り方や避難経路を確認した。
- ④ 災害・防犯時に使用する「子ども用アクションカード」を作成した。用途に合わせて赤・青・黄色のカードを作り、実際の点呼等で活用するとともに、他クラスへも共有した。
- ⑤ 「身を守り、命を守るための合言葉と動き」を、年齢を問わず覚えやすい内容で専門家と保育者が考案し、映像化した。日々の保育に導入し、職員間でも実技を共有した。また、保護者専用サイトで配信し、園全体で防災・防犯意識の向上を図った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ① 賞味期限や消費期限について、すでに持っている知識を活発に発言する姿があった。生肉の変化の予想では「金色になると思う」「明日はまだ色が変わらないと思う」「臭くなると思う」など様々な声が上がったが、共通して「だんだん悪くなっていく」という推測ができていた。実際に匂いが強くなると「こんな匂いのお肉を食べたらお腹を壊す」と、実践を通じた深い学びを得ていた。保育者も一緒に観察・予想することで、子どもたちの探究心がさらに刺激されていた。
- ② 防犯ブザーについて、「小学校に行ったらランドセルに付けるもの」「悪い人が来たら鳴らすもの」と事前知識を持つ子が多くいた。園内のどこに、どのようなブザーを置か話し合う際も、「音が大きい方がいい」「小さい子が間違っ鳴らさないものが良い」「でも小さい子も鳴らせる簡単なものが良い」など、多角的な視点で意見を交わした。実際に散歩リュックに付けてみると「すぐに鳴ってしまう」という課題に気づき、「ボタン式ではない方がいいのではないか」と子どもたち自身で解決策を見出すなど、実践から見直しまで主体的に取り組む姿が見られた。
- ③ 非常口マークについて、「どうして緑色なのか」「人が走っている向きが違うのはなぜか」「矢印にはどんな意味があるのか」「停電したら消えてしまうのか」など、次々と疑問が生まれた。自分たちで図鑑等を用いて調べ、クラスで共有することで、興味を深めていった。近隣施設へ出かけた際も、子どもたちが自ら「今ここで地震が起きたら、どこへ逃げたらよいか」を考え、いざという時の行動をシミュレーションする有意義な体験となった。
- ④ アクションカードの作成では、サイズ、色、伝わりやすいイラストなどについて、子ども同士で役割分担をしながら話し合った。「クレヨンで塗った方が色がはっきりして分かりやすい」「お部屋の端っこからでも見える大きさにしよう」など、目的を意識した対話を通して、仕様を決定していく姿に成長を感じた。
- ⑤ 防犯動画の制作・共有にあたり、他クラスの子どもたちにどうすれば防犯意識を持ってもらえるかを話し合った。保育者が「劇」「言葉」「絵」など複数の表現方法を提案したことでアイデアが広がり、最終的にこれらを組み合わせた内容で伝えることになった。練習では、子ども同士で「こうした方が分かりやすい」と演技指導を行ったり、「小さい子にはこの言い方のほうがいいんじゃない?」とセリフを変更したりと、相手の理解度を意識しながら工夫・探究する姿が見られた。

活動の様子が分かる写真 別紙参照

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

防犯や防災に関する知識が深まったと同時に、子どもたちならではの視点や発想が、保育者にとっても多くの新たな気づきにつながった。活動を通して子どもたちの問題解決力が大きく向上し、話し合いの場では、子ども同士で活発に意見を交換する姿が定着した。与えられた活動をこなすだけでなく、自ら探究することでより深い疑問に気づき、次の探究へと意欲的につなげていく、非常に充実したプロセスを経験することができた。

2025年10月22日～31日

賞味期限と消費期限

【活動内容】

賞味期限と消費期限について給食職員から学び、生食用肉の観察を行い、食中毒への意識を高め自身で判断できる考えを養った。

【子どもの姿】

賞味期限や消費期限について、知っている知識を多く話す姿があった。生肉がどうなるかの予想は、「金色になると思う」「まだ明日は色が変わらないと思う」「臭くなると思う」などと、それぞれの予想が聞けたが、いずれも「だんだん悪くなっていく」という予想が出来ていた。後半は匂いが強くなり、「こんな匂いだったら食べたらきとお腹を壊す」と、実践を通して学びがあった。保育者も一緒になって観察をしたり予想をしたりしたことで、子どもたちも探究心を持って取り組んでいた。

〈10月22日〉

給食職員から、食中毒と、
賞味期限・消費期限の話をしてもらう。

賞味期限の日付に
気付いている子も多かったよ
食中毒の話は興味津々でした。



お肉の色は、だんだん
どうなっていくかな？
金色になる！と予想する子もいました。

〈10月22日～31日〉
生肉の観察



こんなに臭かったら、
きっと腐ってる！
食べたらお腹痛くなりそう。
と予想していました。



2025年10月27日～11月28日

防犯ブザー

【活動内容】

防犯ブザーについて知り、活用方法を知る事で園内での活用方法を考えた。子ども用トイレ、大人用トイレ、相談室など一人になる場所を中心に設置し、使用方法を各クラスに共有した。

【子どもの姿】

防犯ブザーについて「小学校に行ったらランドセルに付けるもの」「悪い人が来たら鳴らすもの」という事前の知識を持っている子が多かった。どのようなブザーを置くか考えている際も「音が大きい方がいい」「小さい子が間違っても鳴らさないようなものが良い」「でも、小さい子も鳴らせるくらいの簡単な物が良い」など、意見を積極的に交わしながら設置する物を決めていた。実践から見直しまで一貫して子どもたちが主体的に考え、決定した。

〈10月27・28日〉
防犯ブザーの種類と役割を知る



音の大きさも書いてある資料で、どれが良いか考えています。

電気が消えていたら、ライトがあると安心かな？

〈11月25日〉
防犯ブザーを体験



〈11月26～28日〉
防犯ブザーの設置・使い方の共有

小さい子も手が届きやすい場所を選びました！



きいろぐみさんにも分かりやすい言葉を選んで説明してくれました。

2025年11月17日～21日

非常口

【活動内容】

非常口の必要性を知り、園内、近隣施設の非常口を実際に見学する事で、自身の身の守り方を実践。

【子どもの姿】

非常口に対する知識だけでなく、疑問を子どもたちに募ったところ「どうして緑色なのか」「向きが違うのはどうしてか」「矢印はどのような意味があるのか」「停電したら消えないのか」など、多くの疑問が生まれた。その後自分たちで調べてみたい疑問を調べ、共有することで、興味のある分野での探究を行うことが出来た。実際に近隣の施設へ行った際も、子どもたちが主体となり、「今ここで地震が起きたらどこへ逃げたらよいか」を考え、いざという時に自分の身を守る体験が出来た。



〈11月17日〉
園内で非常口探し

矢印を発見！どのような意味があるのかな？と予想してから、調べました。

〈11月18日〉
非常口について調べてまとめる

非常口はどうして緑色なのか？を探求するチーム。炎に見立てた赤いフィルムを重ねて、見え方を確かめています。



保育園にあったものと同じマークを見つけたよ！

〈11月19～21日〉
近隣施設の非常口の見学

施設内で、「今ここで地震が起きたらどうする？」と想定し、実際に避難誘導灯に従い出口まで歩きました。

2025年12月1日～5日 子ども用アクションカード

【活動内容】

子ども用アクションカードを作成し、使用方法別に赤、青、黄色のカードを作成し実践。他クラスへの共有を行った。また「いかのおすし」を共有し防犯への意識付けを行う。

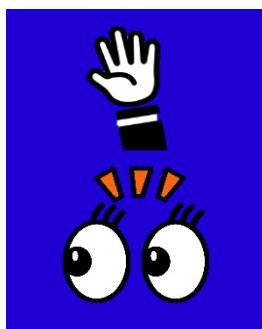
【子どもの姿】

アクションカードの大きさはどのくらいにするか、色は何でつけるか、見て分かるようにするにはどのようなイラストがあると良いかなど、子ども同士で役割分担を行い、「クレヨンで塗った方が色がはっきりして分かりやすい」「大きい方が遠くからでも見える」「お部屋の端っこからでも見える大きさにしよう」などと、対話を通して決定していた。また、避難訓練の際に「先生が怪我をして動けなくなったらどうしよう？」と疑問が生まれ、「車椅子だったら移動できる」という答えにたどり着き、子どもたちも車椅子に乗る体験をした。

〈12月1～4日〉

防犯カード作成・試用

小さい子が見ても理解できるマークにしよう。という事で選ばれたのは、シンプルなマーク。



車椅子に乗る人、車椅子を押す人の体験をしたよ。



〈12月5日〉

他クラスへ使い方の説明



どのような内容だったら理解しやすいか考え、劇を交えて伝えることになりました。



「練習する時間も入れた方が良い」と意見が出て、指揮をとってくれたむらさき組さん。